別添

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立前沢明峰支援学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

本校に在籍する児童生徒の多くは、知的障がいを有している。また、自閉症スペクトラム障がいを併せ有する児童生徒もおり、初めて経験することに対して困惑したり、見通しがもてないことに強い不安感をもったり、一定の食物に対して強いこだわりをもったりする傾向も見られる。

本事業では、危機の自覚や指示の理解と行動、状況に合わせた防護と避難、非日常的な環境下での適応（避難所・非常食体験）等、具体的な取り組みを行い、意識化と定着を図った。

Ⅱ　取組の概要

（1）避難訓練１（地震想定）

「命を守る」ためにするべきことを具体的に再確認し、安全に気を配ること、「どこで」「何が」起こっているのかを知ること、指示に従って行動することを目的として避難訓練を実施した。

（2）避難訓練２（火災想定）

煙体験、スロープ使用不可時の避難の確認や状況に合わせた避難行動の確認に焦点をあて、避難訓練を実施した。

（3）避難訓練３（火災想定/避難所・非常食体験）

火災を想定した地域との合同避難訓練（近隣施設および地域合同避難訓練）を実施し、消火訓練も併せて行った。

消火体験

その後、非常時を想定し、各学部の実態や掌握体制を考慮し、校舎一階数カ所に模擬避難所を設置し、食料の配給訓練や非常食体験も併せて実施した。

食料の配給訓練

（4）防災体験セミナー

高等部３年生を対象に、直接の体験をとおして地震や火災時の対応・避難について確認することで、卒業後の生活に向けて防災意識を高めることができるよう、岩手県立総合防災センターにおいて防災体験学習（防災体験セミナー）を実施した。

救助袋体験

地震体験

（5）避難訓練４（地震想定・予告なし）

地震発生時の取るべき行動に焦点をあて、緊急地震速報から地震発生時、避難時までの基本的な行動の確認に焦点をあて、避難訓練を実施した。

避難の様子

Ⅲ　取組の成果と課題

（1）地震発生直後、適切な行動が分かる・実行する。

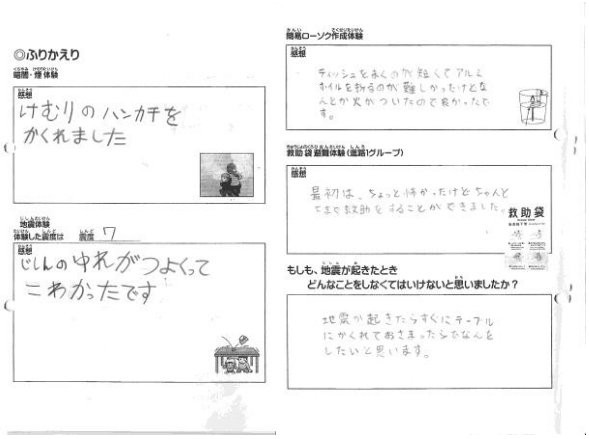
避難訓練３（９月２１日実施）及び避難訓練４（１１月１４日実施）において、高等部生徒を対象に防災についてのアンケートを実施した。

アンケートでは、災害時の行動について「火事がおきた時、どんな行動をしますか」や「緊急地震速報を聞いたら、どんな行動をしますか」「揺れ始めたらどんな行動をしますか」「揺れがおさまっ

たらどんな行動をしますか」、避難時については「『おはしもち』を知っていますか」について確認した。

９月に行ったアンケートでは、避難訓練１および２を経て、ある程度の知識の定着は認められた。

高等部３年生は、卒業後の生活に向けて、防災意識を高めることを目的に、直接の体験をとおして地震や火災時の対応・避難について確認できるよう１０月に総合防災センターでの防災セミナーを行った。



防災セミナーの振り返りシート

１１月に行ったアンケートでは、前回のアンケートと比較し、『おはしもち』はどんな約束ですか」についての知識の定着が上昇した。震災経験により、地震に対して危機意識が高いことも影響していると思われるが、９割近くの生徒が、災害時「机やいすにもぐり、じっとする」など自分の身を守る行動を回答している。さらに、３年生は９５％の生徒が回答しており、防災セミナーでの震度７の地震体験が、強烈な印象として残っており、数値にも現れたものと推測される。

今後、二次災害や避難後の備えも含めた「生き抜く」ための知識・行動（火災時の延焼防止・地震発生直前の出口確保・地震発生後の避難準備等）の定着を図っていくことが望まれる。また、地震体験や煙体験等の体験をとおした、危機意識の喚起と危険回避のための具体的行動力の獲得を図っていきたいと考える。

（２）災害時の場（避難所）や「食」への適応を確認する。

避難所・非常食体験を行い、非常時の場や食料を知る。また、備蓄した非常食のマッチング（嗜好・量など）について、実施後のアンケートを実施した。

避難訓練３（９月２１日実施）実施後、全校児童生徒を対象に【避難所体験について】【非常食体験について】アンケートを実施した。

【避難所体験について】では、避難所体験で困ったことについて、「人がたくさんいたこと」「音（うるさい・さわがしい）」「場所（せまい・自分のスペースがとれない）」および「避難所にあったらいいと思うもの（自由記述）」について実施した。

【非常食体験について】では、「炊き出し（マジックライス・レスキューフーズ）を食べることができたか」「各自の非常食を食べることができたか」について確認を行った。

避難所の中での刺激について、約８割の児童生徒が「大丈夫だった」と回答している。一方「嫌だった」と回答している児童生徒は、複数の刺激に対して不快を感じている傾向があり、その児童生徒の心理的な安定を図り、個への配慮と必要な支援を担う担任の役割は、特にも重要であった。

「避難所にあったらいいと思うもの（自由記述）」では、スプーンやフォーク・ゴミ袋・テーブル・お湯・新聞紙（敷く）・テレビやラジオ・おかゆ等が挙げられた。スプーンやフォーク・お湯・おかゆに関しては、マジックライス等の柔らかさの調整やすり潰しなど個々の「食」に合わせた対応時に必要とされることが分かった。

炊き出しについては、９割の児童生徒が「食べることができた」と回答している。一方、「全く食べられなかった」と回答している児童生徒が４名（３％）おり、個々にあった非常食の準備の必要性が確認できた。各自持参の非常食についてはカロリーメイトや飲むゼリー・カンパン・水やお茶・スポーツドリンクが多かったが、缶詰（パン・鯖・ミカンなど）もあった。全体的には問題なく食べることができた。しかし、カンパンや飲み物等は普段食べ慣れていないため、全く食べられなかった児童生徒も若干名いたことが分かった。

食は、「生きる」ために最も大切なことの一つである。非常時を意識した非常食のマッチングとと共に、日常の中で食に対する興味関心や経験の拡大を図り、非常時に活きる力として培っていくことが望まれる。